



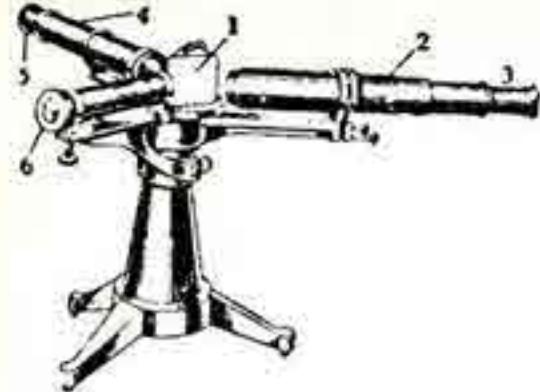
渡辺克己

インタビュー

写真はいつもひとり旅

取材 石黒教子

好きなことばは
「やさしさ」



石 十べさんこんにちは。お元気ですか?
渡 ええ、いたって健康です。
石 本当に健康そうな体格でいらっしゃる
えーと、何から質問したらいいかしら……。
ではまず、渡辺克己さんてどんな方なのかというところで、好きな言葉って何かありますか?

渡 そうね、「やさしさ」かな。やさしいってことはいい。「やさしさ」かな。やさってことを、しようと中考えてます。
石 好きな写真家は誰ですか?
渡 アーバスさんね。この人、どんな風にしてこんな所に入り込んだのかと思って、スケ一人だなって思つた。
「きちがい」なんか撮つてた時にさ、どんな神経で撮つてるのかなって思うね。しんどいわけね。やっぱり「いたみります」じやすまないもんね。

石 対面して撮ることのむずかしさみたいな……。
渡 しんどくなっちゃうのね。そのときどうするかっていうのがある。そうなつて、やっぱり、しんどくなつた事を真面目に考えて、自分で一つの「悟り」みたいなものをつかまなくちゃね。何かあるつて。

石 群盗伝以後、僕も一回しんどくなつちやつた。撮れなくなつちゃつた。でもまた最近、撮り始めた。そこは東洋と西洋の違ひみたいですね。「でもまた明日、陽は昇る」つてあるわけでしょ。だから、写真撮つたくらいで死ぬことないと思つた。でも理詰めしていくと、それは「理由」じゃなくつてですね。



でも、それは言葉で説明できぬよね。ことばでするとね、やれなくなつちやう。理詰めしていくとね、絶対あれは写真撮つちやいけなくなつちやう。アーバスみたいに死ななければならなくなる。でも、僕は死ぬことはないと思う。そこは東洋と西洋の違ひみたいですね。「でもまた明日、陽は昇る」つてあるわけでしょ。だから、写真撮つたくらいで死ぬことないと思つた。でも理詰めしていくと、それは「理由」じゃなくつてですね。

私は焼畑農民

石 渡辺さんの生きた青春とは、ひとことで言つたら。

渡 死ぬつてことを意識してなかつた。意識したら、いろいろ付帯条件を考えなくちゃならない。

石 自分を狩猟民族と農耕民族に分けたら、どちらだと思ひますか?

渡 私は農耕民族ね。でも定住とは違うから——焼畑農民だな。

石 今でも死を意識しませんか? 気にする。気にしました。自分の肉親が死んじやつたときなんか「ああ死んだんだ」と思つ。去年父が死んだんだけれど、唯一親から教えられたことつていうのは



路上は一人つていうのが魅力ある

旅しているのと同じだから

石 当時と、現在スタジオで撮るときと、違つていうと?

渡 新宿のときは路上でしょ。と、だからつて、私は別にマゾヒス

トじやないけれど(笑)

石 渡辺さんは新宿で写真を撮り続けておられて、「新宿群盗伝」という写真集も出されているんですね。

渡 ああいつた、「流しの写真屋」というよつなかたちで撮りはじめたつていうのは、いつ頃からなんですか?

渡 えーと、昭和40年頃から50年頃まで10年間位ですね。

石 その頃の事、少し話していただけですか?

渡 飯食いたいわけじゃない!だから真剣勝負よ。二百円で安いから一人一枚ね。で、当時は玉じやなくて、百円札でね、フィルム一本位撮ると、ポケットが札でテクッとふくらむわけ。あれが嬉しくてさすげえ稼いだと思って。(笑)

石 その頃の事、少し話していただけですか?

渡 えーと、昭和40年頃から50年頃まで10年間位ですね。

石 その頃の事、少し話していただけですか?

渡 飯食いたいわけじゃない!だから真剣勝負よ。二百円で安いから一人一枚ね。で、当時は玉じやなくて、百円札でね、フィルム一本位撮ると、ポケットが札でテクッ

とふくらむわけ。あれが嬉しくてさすげえ稼いだと思って。(笑)

石 今後も新宿を撮り続けるつもりですか。

渡 今も行つてますよ。でも新宿にこだわらず、「路上」にこだわりたいと思っている。

石 今、新宿へ行くと団体さんが多

いね。昔は一人で居る人が多かつた。やつぱり路上は一人つていうのが魅力ある。旅しているのと同じだから。

石 今、写真を撮る上で、いちばん気になることつていうのは? それはいちばんいいんだけれど、あまりにも変りばえしないこと。内容はそのまま、パトーンだけ同じ。それは絶望的でしょ。

マンネリになりたくない。群盗伝なんかで出てたようなものをやれば簡単にやれるという気はするんだけれど、そんなのいやじな

い。だから、自分で別な自分を見つけ出してみたいと思うんだけれど、群盗伝で10年も同じことやつて無責任に言つて手が可哀

そうだけれどさ、(笑)——手が

こう、出てくるのね。で、新宿で写真屋やつてたときには二百円の人間関係で、いいの撮れたけど、

今度趣味でいつたときには、そつとうからさ、写すと手が——「手が

が」つて無責任に言つて手が可哀

そうだけれどさ、(笑)——手が

いうきびしさがないじゃない。だから内容もひどいの。形だけ同じ

で内容ひどいっていうのは、こん

い。だから日本を撮りたい。たと

えば、飯食つだけで生きてるとか。

カメラやって手が撮つちやうと

いうのは、そついうところだと思

うわけ。飯食つたりするのと同じ

よくなりたいじやない。

石 今いちばん関心がある事つて何ですか?

渡 虚空人間みたいなの。関心があるつていうか、撮りたい。たと

えば、飯食つだけで生きてるとか。

カメラやって手が撮つちやうと

いうのは、そついうところだと思

うわけ。飯食つたりするのと同じ

よくなりたいじやない。

石 渡辺さんの生きた青春とは、ひとことで言つたら。

渡 死ぬつてことを意識してなかつた。意識したら、いろいろ付帯条件を考えなくちゃならない。

石 自分を狩猟民族と農耕民族に分けたら、どちらだと思ひますか?

渡 私は農耕民族ね。でも定住とは違うから——焼畑農民だな。

石 今でも死を意識しませんか? 気にする。気にしました。自分の肉親が死んじやつたときなんか「ああ死んだんだ」と思つ。去年父が死んだんだけれど、唯一親

から教えられたことつていうのはそれだけだね。

石 最後に、写真をひとことで言

うと。

渡 人生そのもの。